



はじめに

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

12月の家に帰るころは雪がたくさんあったセンター周辺は、年末年始は穏やかだったようで、みんなが戻ってくる頃には雪がないセンターでした。しかし、そんな日は束の間、子ども達が戻ってくるとまたすぐに雪が降りあつという間にセンターの周辺は雪景色になりました。心配していたスキーの活動も順調に行われ子どもたちは島根の冬を楽しんでいます。

冬休みに帰る前に子ども達には来年度について家族と話し合ってくるように話をしました。小中学生の子どもが、家族と真剣に自分の進路について考える、そして自分で決断するという機会は、なかなかあることじゃないと思います。そんな大事な時間をそれぞれ冬休みに持てたでしょうか。我々指導者は、学園生各々がどんな決断をしたにせよ、残りわずかな3学期をその思いを大事にしながら、新たな1歩への手伝いができる時間にしていきたいと思っています。

吉澤 かおり

活動カレンダー

1月 7日(火)	帰園	18日(土)	醤油教室 リベンジ醤油麴作り
11日(土)	醤油麴作り	19日(日)	アルペンスキー②
12日(日)	ノルディックスキー	20日(月)	農家入り
13日(月・祝)	アルペンスキー①	26日(日)	和楽器コンサート太鼓出演

醤油麴作り 1/11(土) 曇り時々雨

3学期初めての活動は、醤油を仕込むための麴作りでした。最近センターでは味噌と醤油を1年ごと交互に作っています。昨年は味噌作りをしたので今年は醤油を自分たちの手で作ります。

まずは醤油の作り方や材料を知ったり、これまでに作った醤油や市販の醤油などの味比べをしたりしました。その後、醤油麴の原料となる大豆を煮たり、小麦をフライパンで炒ったりしました。炒った小麦はミキサーにかけ細かくし、茹でた大豆と、そして醤油の麴菌を混ぜ合わせ、まちセンにある自動発酵機を借りて温度を保つように仕掛けました。うまくいけば数日で醤油麴が出来上がり、次はそれを使って醤油を仕込みます。



ノルディックスキー活動 1/12(日) 曇り

帰園したころには雪がなくなっていて、ノルディックスキーができるか心配でしたが、週末までにしっかりと雪が積もったので、この日はノルディックスキーを行いました。

三瓶青少年交流の家で道具を借り、まずは板を履いて歩く練習をしました。普通のスキーとは違い、歩くことがメインのスキーなので、板もいつもよりも細く、かかとが外れる板になります。スキーを初めてやる子もまずは歩く練習からしました。滑る事よりも歩くことがメインなので初めての子でもみんな上手に歩けるようになりました。その後は3つの班に分かれて遊歩道を通して冬ならではの自然観察をしながら東の原へと向かいました。東の原でお弁当を食べた後は、ノルディックスキーレース「三瓶こだま杯」を開催しました。ただ、コースを走るだけではなく、途中でジャンケンに勝たなければ進めないという運もあるため、スキー初心者

も競えるレースとなりみんなで楽しみました。その後は、スキー場跡の斜面を登ったり滑ったりしながら、ノルディックスキーを堪能しました。



アルペンスキー① 1/13(月・祝) 雪

子どもたちが楽しみにしていたアルペンスキー。指導員から道具の扱い方やワクシング等の手入れの仕方を事前に学び、入念に準備をした上で、初めてのアルペンスキーに行きました。スキー初心者の子どもたちは、講師の大國夫妻に丁寧に指導してもらったおかげでどんどん上達し、あっという間にリフトに乗って滑って降りられるようになりました。経験者の子たちも、今シーズン初滑りなので、はじめのうちはゆっくりと滑り、徐々に感覚を取り戻していました。ゲレンデにはしっかりと雪が積もり、全コースがオープンしていたので、全てのコースを滑って練習することができました。



醤油教室 リベンジ醤油麴作り 1/18 (土) AM 晴れ

醤油仕込みの為の醤油麴を仕込んだ1週間後、醤油博士に出前授業をお願いしました。醤油博士は大田市にある原醤油屋さんから来てくださいました。醤油の原料や香り、醤油ができるまでの工程などを詳しく教えていただきました。

その後、本当は醤油を仕込む予定でしたが、前回の醤油麴仕込みが失敗してしまったので、再度醤油の麴を仕込むことになりました。2回目なので子ども達も手際よく作業ができました。



アルペンスキー② 1/19 (日) 晴れ

2回目のアルペンスキーを行いました。この日は三瓶山もバッチリ見えるほど天気の良い中での活動でした。この日も大國夫妻に講師として教えて頂きましたが、それぞれに自分の課題を克服できるようにしっかりと練習を積むことができ、初心者の子どもたちもずいぶんスキルアップできたのではないのでしょうか。



和楽器コンサート 太鼓出演 1/26 (日) 晴れ

大田市の和楽器コンサートがあすてらす(大田町)で開催され、北三瓶っ子太鼓クラブが出演しました。この日は、まず午前中にリハーサルを行い、その後昼食、そしてコンサートが始まる前には篠笛教室もあったので、希望者は何人か参加しました。コンサートが始まり、篠笛や神楽の太鼓などの演奏があり、最後に北三瓶っ子太鼓クラブが演奏をしました。ホールを埋め尽くす大勢のお客さんの前で太鼓を披露するとても良い機会となり、発表後も「素敵な発表だったよ」とお客さんから励ましのお言葉をいただきました。また一つ自信に繋がった舞台発表でした。



西村崇司のつぶやき

＼火をつける（私見２）／

前号に続いて「火をつける」についての私見を書きます。わたしは、点火の道具としてマッチにこだわることは懐疑的でライターでも良いという考えです。すでに、子どもたちの親世代の多くがマッチやライターを使ったことがないのに、その子どもに点火はマッチというステレオタイプは時代錯誤だと考えます。「これから飯ごう炊さんタイムだからマッチを使ってカマドに火をおこしましょう」という場面があったとしましょう。多くは、新聞紙や落ち葉などの着火剤の上に焚き木を円錐状において、すぐに点火しようとしています。でも、その時の状況判断がとても大事です。風が強かったり小雨が落ちている状況でもとにかく火をつけたい一心でマッチを擦っても着火する前に消えてしまう確率が高いです。私なら、そんな場面では状況が収まるまで待って火をつけます。待つという行為も良しとするプログラムであって欲しいです。また、子どもたちがマッチを使う場面で一番気になることはマッチ箱を大切に扱わないことです。火がついた、つかなかったにかかわらずそこら辺りに放っぽっていることが多いです。私たちは、雨や水や汗にぬれず、箱がつぶれないように注意して服のポケットに入れておけ、あるいは、ビニール袋に入れて風で飛ばない所に置いておけと教え込まれました（かばんやリュックを持つという風習がなかったため。ある場合はその中に入れる）。何かそういった基本的なルールを軽視しているのではないかと懸念しています。また、大人はそういったところに目配せして評価し、活動後にみんなで振り返って欲しいと思います。１本で着火させた人がスキルが一番高いわけではないです。また、１０本使っても火がつかなかったとしても練習すればできるようになります。

さて、「火をつける」ことで一番大切なことは、着火したあと消すことなくその火を大きくしていく過程だと考えています。火をつける日時が決まっていれば、当日、雨が降るかもしれないからそれまでに乾燥した着火剤や薪を集めておくといった前準備が必要。着火用に落ち葉を集める、火を少しずつ大きくするために乾いた枯れ木の枝を集める、細い枝木、少し太い枝、太い薪を分けて紐で縛っておく（できれば着火剤にも使えるシュロ縄、麻縄を使う）と良いです。もちろん、万能の新聞紙も用意。そして、ナイフ、ナタ、ノコギリで枝や木を切る、割る、削ぐといった練習もしておくといいでしょう。ここで大切なことは、前準備の段階から１人でやるのではなくできれば経験者と一緒にやることです。本番のカマドを作ってその中に火床を作り焚き火をする過程でも同じです。ある程度のスキルが身につくまでは、できれば経験者と一緒にやりながら正しいことや手順を学ぶとより早く、より深く身につくはず。また、経験者も初心者へ教えることで教え方を学び、時には目からうろこの発見ができるかも知れません。バディを組む意義はそこにあります。焚き火を囲みみんなで話しをしたりカマドで作った料理を食べたりすることはとても楽しいです。おススメは、できれば夜に、焚き火、熾き火、炭火を問わずその火や灯りを眺めることです。つつい無心になれ時間の経過がなくなる瞬間があります。こういった体験をしたことがない方、ぜひ、山村留学センターで一緒にしましょう。

～神楽練習中～



「くにびき通信」2024年1月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター
公式ホームページ



バックナンバー

〒694-0002 鳥根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp